

第17回 第3分科会会議録(概要)		場 所	新宿区役所第1分庁舎 研修室
日 時	平成18年3月23日 午後6時30分～午後9時00分	記録者	【学生補助員】 佐々山、大音
		責任者	区事務局(黒澤)
会議出席者：35名 傍聴者0名 (区民委員：25名 学識委員：2名 区職員：6名 コンサル：2名)			
配布資料 ・第3分科会(第17回)次第 ・中間発表会(第3分科会・第一部におけるアンケート結果) ・中間発表会の第3分科会への意見・質問等 ・第3分科会提言書(たたき台) ・提言書提出までのスケジュール ・第1回世話人会会議まとめ ・第3分科会(第16回)議事録 進行内容 1 中間発表会での意見・提案等の集計結果について 2 提言までの今後の進め方について 会議内容【発言者】 : 区民委員、 : 学識委員、 : 区職員 : コンサル 1 中間発表会での意見・提案等の集計結果について : (配布資料確認) : こんにちは。中間発表会では皆さんお疲れ様でした。無事盛況のうちに中間発表会を終えることができました。今日は、グループ別の議論が最後になります。今日の最後の作業は、一つこの前の中間発表会で他の分科会もいろいろ発表されて、これからまとめに入りますが、気がついたことや改善したほうがいい点を含めて、議論していただければと思います。参考資料がこの縦長のA4の資料になります。頭に第3分科会の発表を聞いてのご意見と、区民会議全体に対してのご意見があります。これに目を通していただいて、これから第3分科会として作業を進めるに当たって参考になる意見などグループの中でお話いただければと思います。その次にもう一つ横長の資料、これは第二部でグループ分けしたそれぞれに対して出てきた意見をまとめたものです。それぞれのグループに対して直接ご意見をいただいて、記録を取られたものです。これ以外にあるのかもしれませんが、それぞれのグループで、この意見の扱いを議論していただきたいと思います。それからもう一つ、第二部のやり取りの中で質問に行っているやり取り、これについては記録がないです。それについては、思い出しながら、こんな意見のやり取りがあったということを書き出していただければと思います。ざっくり言えば、第3分科会あるいは全体に関わるアンケートについての、我々の立場			

の確認とこの辺を追い込みしましょうという話。それからもう一つ。こちらから質問に行ったときにどんなやり取りがあったのか記録の洗い出し。作業としては大きくいえば二つになると思います。それを30分くらいでやっていただきたいと思います。

(グループ討議)

: 我々の内部ではいろいろ議論していましたので、その方針と違うような意見も勿論あるでしょうし、あるいは全く議論しなかったようなことも含めて布石があるかもしれませんし、その辺の扱いだとか、あるいは我々の議論の中で方針が違ってしまふものとか、色々混ざっていると思います。それを一応第3分科会としては各分科会のテーマと重複していますので、その重複部分を出来るだけ整理してうまく埋めていきたい。他からの指摘があれば、できるだけ盛り込めるものは盛り込もうということで、調整のためにこの作業をしたいと思っています。それでは各班3分でご報告宜しくお願いします。

(安全・安心)

: 先日の会議で意見交換したのはこちらのほうではハードを検討するので、今までもソフト面での検討は十分していたんですが、これからはハードに絞っていくということで、今まで検討した内容について、第6分科会の地域安全のほうに、その情報を提供する形で考えております。それで、第6分科会からもし地域安全ということに関して、ハードの要求があればこちらで請けるという事で、できればこの会議も人の派遣、出入りをして情報を共有しようということをお話してきました。こちら防犯と防災両方の面で行っていくということで、主に防犯の面で第6分科会に情報提供することになっています。

: 具体的なハードとしては、耐震・不燃化を進めていくだとか、実際的に今行っていることを進めていくということが出ています。一応そういう意見交換でした。

: ちょっといいですか。第3分科会に他の分科会から来ていただくご招待のプログラムは後で紹介しますが、第6分科会で何かやる時に出て行きますという話にもなっているのですか。

: こちらから行きますと。

: 行く。向こうの分科会へ。

: はい。

: 例えばこれから何回かありますがそれに全部出る。どういう連絡になっているのか。

: 向こうからお話があれば行く。

: そのようになっているのか、世話人は。

: 今日の午前中の打ち合わせでは、そういう話はなかったです。今日の午前中、世話人があったのですが、こちらからはこういうプログラムを考えているので、是非、安全・安心という話のときに、第6分科会の人にこの日程でいらしていただけますか、というような要請はしました。第6分科会の方は確かにそういうやり方はいいですね、

というような感じで、他の分科会の方々はどうやって意見交換していこうかという、あまりその考えはなかったです。

：他の分科会にも関係するので申し上げるんですが、だんだん僕らは最終の報告書の項目立てと、この中項目は第3で書くのか、第6が書くのかどっちでと考え始めています。例えば第3で考えて投げ掛けて、赤入れてもらって、でも責任は第3でというような中項目もあるだろうし、そういう力関係に段々となってくるので、ここはおっしゃるように一番第6分科会との関係が強いので、どうなるのかわかりませんが。

：防災に関わる面に関してはこちらが中心でやると。防犯に関わる面に関しては第6の地域安全で良いのではないかと。

：では、そう整理しましょうか。

：そうですね。それに伴ってハード面に関わることであればこちらでも取り上げていくと。

：なるほど。分かりました。防災はこちら側が中心で、防犯は少し第6分科会の情報も頂きながらハードのほうはこちらでやると。第6分科会の世話人がいますね。

：すいません。今ちょっと質問を聞いていなかったのですが、今日の会議の中において、第3分科会のほうからいい提案をもらったので、いつどのテーマでやっていますというものを頂きました。実は他の分科会はそういう用意はなかったです。そちらに行く分科会もあるし、張本人の第6分科会はそういうのではなくて、ただこの問題に対してどう思いますかという意見書でかわそうかと。行くだけだと行った人のニュアンスしか聞かれないからどうなのかという部分があるんです。最終的に、5月9日の協働のところはやっぱり出向いて行って、まとまりの部分をディスカッションしたいという気持ちは持っているのですが、でもこれはあくまでも自分の意見で、第6は合意形成で皆が行かないと言ったら行けないので、第6は多分、文章でどうでしょうかと、今特に地域安全ということで一つのテーマで全体で話すという流れをとっていないんです。ある程度固めてそれを班で話させて、それをまとめたものを後で運営委員会でまとめてこうやろうというやり方なので、もしかするとその辺のところに来ていただいたほうが話が見えるのかと。

：運営委員会。

：そうです。

：セットしていただけるのならば。

：具体的にどういうふうにしたいという話をプロポーズして貰えれば、それに対して第6がこういう形でいつ頃来て頂けないかということは返事が出来るのではないかと。ただ漠然と同じテーマだからと来られても、その辺がどうなのかと思いました。

：第6のほうから出ているのは、災害時に地域の防災キャプテンをどうしようかと。

：そういうのもあるのですが、結局その中でも防犯・防災いろんな6つのまた小さなことに分けているので、それに対しての内容は答えることが出来るし、意見交換も出

来ると、ただ、獺として地域安全と言われるとちょっと無理だというふうに。

：他の分科会と意見を吸い上げるという話は、その後考え方といたしますか、こちらから案を持っていますので、そういう含みで話を一回切らせていただきます。

：この二つの資料の中で、特段今まで議論しなかったことや、目新しいことなどはなかったですか。

：ないです。

：はい分かりました。

(魅力と賑わい)

：第一部のアンケートも第二部のアンケートも全くありません。内容がないです。もう一つの二部のほうは、ユビキタスが入っているだけです。やっぱりユビキタスに関しては第6分科会のほうから、結構突っ込んだ話をいただきまして、それに関しては私のほうから答えました。今30分話した中で出たのは、エリアの解放、東口をどうしていくかということをもっと細かいところまで、細かく最後までディテールを作っておせたらいいという話を持ってこの30分は終わりました。以上です。

(みちネットワーク)

：みちネットワークのほうで、最初の横書きのほうの二部に出てきた話と、一部に出てきた話があって、ドイツのメジャーなどの話があったのですが、その辺のところでも中間発表の時にはディテールを書いて出したんですが、その先ちょっと行き詰っている。どこまでどういうふうにもう強めに出していこうか、ちょっとまだ絞りきれていない部分がある。だからもう少し時間を頂いて、ディテール部分だけを押すのか、もう少し全体的なハードな部分、出てきた内容もあるが、そこまで突っ込んでやっていったほうがいいのか、ちょっと今苦慮しているというところです。

(歴史・文化)

：第5分科会の方がほとんどでして、第5分科会の方が産業・文化・観光、そういうテーマでやっている。その産業・文化・観光というのは一体としてやっていきたいので、私たちのほうはハードのほうに専念して欲しいと、その他は我々がやりますよ、みたいな話だったのですが、どうもお話を聞いておきますと、やはり文化・産業と言っても、観光にちょっと特化しているような印象を受けました。それで、私たちは結果として観光になるかもしれないけれども、観光というものを前面に出しているわけではないということです。それから、私たちのほうから第5分科会に行った方は、自分のご出身のこともありまして、牛込部門から今の久保通りのほうの線形の部分で、若狭の守の酒井邸があったところのその辺の線形の部分を歴史別に整備できないかという案を言ったのですが、ある程度都市化が進んでいるので無理かもしれないということで、例えば神田川の高速度道路の地下化、そういったところは非常に賛成していただいたようです。それから、第5分科会とは何らかの形で連絡をとっていかねばならないとは思っております。その他にこちらの資料で見ますと、第6分科会で多文

化・共生という言葉が出ておりまして、これは少し聞いてみる必要があるかもしれないと思います。それから、第4分科会で区民の森を作るといようなことがありまして、これは都内ではないかもしれないですが、要するに緑を植えていく、緑化していくといような意味合いだといようなことです。漠然としておりますが、これに関連するものはこういったところです。

(住まい・暮らし)

：第1、第2、第5、第6分科会にとりあえず行ってきましたが、正直なところ一ヶ月前の話で忘れていて。その時に書いたものは向こうに残っているのですが。定かではないので今話し合ってまとめたのは、まず第1分科会のほうで、子供の利用する施設の中にユニバーサルデザインという言葉が出ていたので、それがどういうことから出ているのかとちょっとお聞きしましたが、特に特化したユニバーサルデザインということではなく、誰でも使いやすい子供の施設の中で使いやすい部分があったらいいといようなことで、方向がそれてしまったのですが。それから、第2分科会のほうではバリアフリーということをすごく言っていたので、こちらとしても同じ意味ではあるんだろうけれども、バリアフリーも含めたユニバーサルデザインという考え方を第3分科会では考えているので、そういうユニバーサルデザインについてどういうふうに考えているのかとお聞きした時に、ユニバーサルデザインという言葉あまりよくご存知なかったなので、その辺のすり合わせが必要。内容的には同じ事を言っているのですが、今の現状を良くしたいということをおっしゃっていて、その辺のすり合わせが必要ということを感じました。それから、第5分科会のほうは、よく覚えていないのですが、商店街を活気付けるという話が出たので、その中で出来る範囲でユニバーサルデザインを進めていくと、またいろいろな人がそこに入ってきやすいという話をしたのは覚えています。第6分科会のほうは、共生のあり方という点で住まいと暮らしの点で、外国人との共生については発表と現実は違っているという感想があったので、その辺を聞いてきましたら、それは第6分科会のほうでもその辺については話し合いがされていたのですが、今回の発表ではそこまで盛り込めない、内容が濃くてぐちゃぐちゃだからということさらっとまとめたという話で、もっと具体的な内容をハード面でもソフト面でも必要という話をしてきました。以上です。

(うるおい・公園)

：私また一人きりで今日誰も来てないですが、この前お話したようにどっちかいったら皆さんに来て貰って、受けるほうを主にしようという事で、ここにも書いていただいたようにいろんな意見がありましたということと、やはり公園というのは今度は逆に考えた場合に、単にうるおい・公園ということではなくて、景観や緑、多岐に渡って、当然関連性をもって来る場所だろうと思います。基本的にはやはり皆そう思ったのですが、今ある公園をどういうふうに近隣の人たちが上手に使えるように今後していくかというのが、誰も考える一つの課題ではないかと思ひます。これまでに例

えば、育児中の親子が歩きたくなるような道、まち並み、公園に向かう道いろいろと意見がありますが、基本的には子どもが考えたように新しい公園を作っていくのは無理なので、今ある公園を本当に地域の人たちのために、例えば公園とは、安全・安心、防災・防犯というものも関連するような公園も出てくるでしょうし、そうでないものもありますから、そういう細かな問題だとかいろいろあるのですが。そういう細かい問題はさておいて、要は公園というものを公共のたまり場の施設、どういうふう to 今後使い勝手のいいように育てていくかということに話は尽きると思うのです。それで、私逆に質問に行ったのは、公園の近くにいるものですから、小さな子供を連れて毎日来るお母さんたちの姿を見ていて、その辺を発想して話を切り出したのですが、実は私が向こうに行って話をしたのは、この問題とはぜんぜん逆に教育の問題ということで、学校教育もあるかもしれないけれども、現代の世の中を見ていると教育、教育と叫ぶけれども、我々は教育を第一番にやらねばいかんと。こういう話で、向こうの方とそうだそうだと意気投合して話が終わってしまいました。以上です。

(超高層建築)

: 4班は受付担当で、来た人に必死になって私も10~15件ぐらいヒアリングシートに書いてずっと受付をやっていました。他の分科会には行っていません。私の記憶では公園関係の要望が多かったような感じがしました。印象に残ったのは、第1分科会、子育ての視点をハードに落とす時に必ず入れてくれと、これは公園作りもそうだし、学校の跡地活用もそうだし、第1分科会の人の子育てでこうやろうということで、ハードに落とす形の結びつけがどうなるのか分からないですが、いろいろ分科会がだぶっているという意見がありましたので、ソフトとハードというなかの交通整理が必要ではないかというような気もしました。その中で、地域通貨の話が環境のところに出っていたので面白いと思ったのですが、地域通貨でも環境だけではなくて他にいろんな使い方があってと思います。支え合い・仕組みの話だとか、他の分科会でもそういうようなところがあるので、各分科会と第3分科会がいろいろ複層しているという印象がありました。それから超高層は3点意見があったということで、直接は子どものほうで受け止めてはいませんが、規制というより景観というのが非常に重要だと思ってしまふ。西新宿の超高層の景観、ちょっと違和感のある都庁みたいな、あの景観のビルが出来たらもう超高層、どの景観でも別におかしくないというふうに都庁が潰しているわけです。これはもういいのではないかという感じがします。それから、解体への対応というのは100年持たすビルを造っています。解体するのは後80年後ぐらいなので、10~20年後のマスタープランの中ではないのかなということ。防災の面ではやっぱり、超高層の防災というのはいろいろ考えているのですが、他に比べて一番消防がうるさいところですから、防災もきちんとしていて、本格火災もほとんどないですし、西新宿の場合は道路が離れていて、それぞれの区画も独立しているので、一つのお城みたいな感じになっている。防災上縦の問題はあると思うのですが、他の密集

地に比べれば問題はないと思います。それで超高層はちょっと切り口が違うので、何か新しいテーマが出来たら、テーマに沿って多少超高層も入れて今後参加するようにしたいと思っています。以上です。

(まち並み・景観)

：まち並み・景観のご報告を申し上げます。実は私午前中出席したのですが、午後出席していませんで、どういう意見があったのかよくわかりません。またここに二人他にもいますが、いずれも意見を聞いておりません。従ってこのグループには午後に意見を聞いた人は誰もいない。そこでここにあるアンケートの回答をお話したいと思います。まず第一に新宿区は15～20年後の日本が一体どうなるのかという一番最初のスタートの時のこれにまだお答えしておりません。まずそれをしっかりお答えして欲しいと思います。それから、日本の21世紀ビジョンというのが政府のほうから出ていますが、相変わらず日本は経済の成長です。まだまだスウェーデンと比べるとえらく違う、というのは私景観のほうですから、景観というのはどちらかというと経済の成長もあるかもしれないですけども、景観も大切にしていかなければいけないということをお願いしたいわけですが、それで、ここにいくつかの意見がありますが、結局、景観が一番問題なのは合意形成です。皆それぞれ俺はこれがいい、これがいいという話になります。そこで合意形成をどうしたらいいかということが一番ポイントになると思います。そこである当事者同士、あるテリトリー内、あるいはゾーン内の例えば地権者とそれ以外の人たちが争ったところで解決はつきません。そこでNPOあたりが入り込んできて、合意形成をするようなスタイル。景観協議会という組織を作って、それで解決していくのがいいのではないかと考えています。以上です。

(支えあい・仕組み)

：支えあい・仕組みは従来からある都市計画との関連。それについて、その辺は今回の区民会議のスタートからそういう話はなかった。答えようがなかった。そういう意味では区民会議自体の性格付けが今ひとつ全体の区民に共有されていなかった帰来があると私自身反省している。まちづくりはハードだけではなくてソフトの裏づけも必要。このソフトというのはいわゆるパソコンソフトではなくて数値的なデータです。統計的データこういったものが、これから将来の新宿区のイメージを浮かべる場合の基礎になるのですが、例えば外国人が増えるとか、人口の高齢化がどれぐらいになるのか。そういった要するに新宿区のアウトライン。これがないと要するに新宿区のみまちづくりをしても魂が入らないまちづくりになるのではないかと。要するに都市というのは人間がつくるものですから、その人間がどういうふうなハードにおいて生活しているのか、それぞれいろんな人種といますか、それから年齢もありますし、男女の差別もありますし、そういったいろんな意味での人々がそれぞれ一人ずつ、どういう満足できる生活が送れるのかという、そういうものが見えてこないという不満があったようです。私自身は第6のコミュニティー分科会にも行ったのですが、これは私の

私見ですが、かねがね言っていますように、まちづくりにしろコミュニティーにしろ、先程からどなたかもおっしゃっていましたが、単なる協議会だけではだめだということです。意欲のある人たちが結集して初めて実現できるものであって、ただ頭数だけそろえて、自分の城をがっちり固めようというそういう人たちの集まりではなくて、目標を持った、テーマを持った情熱の集団こそまちを変えていくものだと思うのです。だから私見ですが、参考にしていただければ以上です。

：基本的に9班から外に意見交換に行ったのは一人だけです。行っただけで議論が進まなかったようです。どちらかというとなら9班は防戦一方でしたので。その中で地区協議会に対していろいろと比較的なご意見がかなりあって、それを今後どうしていくのかが多分9班での議論の延長線でいけばというのが課題とっております。

：これから5分ぐらい休憩をとりたいと思います。

2 提言までの今後の進め方について

：今日の議題の2番目という事で、今後の進め方を含めてご報告並びにご意見をお伺いしたいと思います。まず第1回世話人会会議まとめという資料があるかと思います。これと、提言書提出まで(第4ステップ)のスケジュール案という1枚縦の表があると思います。この2つをご覧頂けますでしょうか。先だって2月19日に世話人会という準備会みたいなものを中間発表会の午後にやりました。そして正式にはこのメモにございますように3月10日午後、このようなメンバーで開かれました。基本的には我々卯月と窪田さん、それから第3分科会の代表といたしまして山下さん、それから第6分科会では高野さんが入っていらっしゃいます。それで中間発表会以降、最終発表に向けてどのように各分科会の調整をするかという事を主にお話し合いをさせていただきました。というのは中間発表までは分科会ごとに40枚のレポートを作って当日の発表も六つの分科会1人ずつ出していただいたということでよかった訳ですが、最終の報告書というのはもう少し6つの分科会の重なりあう点などを調整した上で今までの基本構想、基本計画、都市マスタープランに関わってこなかった方々にも読みやすい形で新宿区の憲法みたいなものを作る訳ですから、もう少し分かりやすくしようという事で調整をさせていただきたいという事で始まりました。それでまず以下の点が決まりましたと書いてありますが、テーマ1と書いてあります。このテーマについてはあとでお話しますが、いくつかのテーマを各分科会から3つ、4つ出していただいて、その出していただいたもので整理をして、これとこれは第3分科会、先程のお話しになった点で言えば、安全安心という意味では第3と6が一緒になってやった方がいいということで、同じテーマについて第3と第6で分担執筆するというようなイメージになる訳です。あるテーマについては、ひょっとしたら第3だけで書けるかもしれませんが、例えば公園についても子供のグループ第1分科会はかなりやってらっしゃいますし、第2分科会の高齢者の方も若干あったような気がしますので、その辺をあわせて例えば公園というテーマだったら、3つの分科会の人書き分けて、書き分

けるうちに整理をしなければいけないということで、最終的に各分科会で調整をしていただくのですが、でも最後の最後の所は世話人会が責任を持って最終発表に向けての原稿をとりまとめましょうという事になりました。それで細かい話ですが世話人会の中でも特に編集部会という、7番目の所に仮称起草調整部会と書いてありますが、これは編集部会という名前に決まり、要はたたき台のたたき台を作る部会というものがスタートいたしまして、これは高野さんと窪田さんが部会長、2人とも第3分科会に入っているという大変強みがあるのですが、余計な話かもしれませんが、すみません。もちろん僕らもお手伝いする訳ですが、というような形になって最初のとりまとめをする。そして各テーマの中には現状の課題というポイントと今後の取り組みの方向性という事についてまず整理をしましょうという事がおおよそ決まりました。それでもう1ページのほうを見ていただくと重要な点がいくつかあります。6月25日は既にご案内の通り最終発表の日になります。区長に分厚いレポートをお渡しするというようなセレモニーもこの日に予定されています。場所は早稲田大学の井深ホールとなっております。そして印刷をするという関係で6月25日に間に合わせるためには、6月10日に原稿を入れなければいけないということが決まっているようであります。そして6月の10日に原稿を入れるためには、こんな最終レポートになりますということ一度各分科会で確認をしていただかなければなりません。それが実は6月6日、23回目全体会についてと書いてありますが、そこで最終の6月10日に原稿を入れるものがこんな形になりますという事を見ていただきたいという会が6月6日になります。その前、少し日が空くのですが、5月18日、前回お渡ししたスケジュール案には入っておりませんでした。ですから全く新たに5月18日は追加されています。同じように申し上げると前回のスケジュールでは5月25日が入っていました。これはキャンセルです。それからもう一つ6月22日というスケジュールも前回に入りましたが、これもキャンセルになりました。それは今申し上げた6月10日に原稿を入れなければいけないということが浮上しましたので、6月22日はやる事がない。もう印刷に入れてしまえばやりようがないという事であります。先ほどの5月25日にやろうと思っていた事がちょっと1週間早まった理由は、各分科会から調整をした原稿を出すのを5月中旬と世話人会のほうで決まってしまうました。5月中旬に各分科会で調整をした上で書いてくるわけですが、でも書いて来たものをもう一度見ないと本当に調整が出来ているか分からないという事で、5月18日にその前の5月9日までに検討した個別のテーマ、個別の内容についてを総集編みたいな形で、いわゆる第3分科会の総合的なまとめの会を5月18日にし、5月の中旬から下旬に企画のほうで各分科会から出て来た原稿を取りまとめるというのに間に合わせようという事になりました。従って5月25日がキャンセルになって、1週前の5月18日にやる事になりました。そしてそれまでのスケジュールを何回とれるかという事で確認したところ、以前お配りした資料では4月4日、4月20日、5月9日、こう考えますと3

回しかとれない。3回ではあまりにまとめの議論ができないということで、4月11日も追加させていただきました。これは前回の資料の中には入っておりませんでした。ということで今日を除きましてあと4月4日、11日、20日、5月9日、4回が最終報告に向けて第3分科会の議論が出来る回数ということになりました。これは世話人会のほうで最終報告に向けてのスケジュールが決まった事を受けての変更という事ですので、是非ご理解いただきたいと思います。もう一度繰り返しますが、5月25日及び6月22日はなくなりましたので、手帳のほうを変更しておいていただきたいと思います。よろしいでしょうか。これが世話人会とスケジュールの関係です。それでは次にもう一つ、4月4日から4回、こんなテーマで議論をしていきたいという案がここに書いてございますので、それについて窪田先生のほうからご説明をしていただきます。

：第3分科会提言のまとめスケジュールと真ん中に大文字で書いてある資料をご覧ください。各分科会リーダー様となっておりますが、これは今日の午前中の編集部会に山下さん、高野さんは第6分科会としてですが、あと私が出席したのですが、その時に他の分科会のリーダーの方々にお渡しした資料です。内容はどのようなものかと言いますと、先週の土曜日の夕方6時から各グループリーダーの方々とお月先生と私とコンサル、事務局とで、これからの大きな章立てを少し考えましょうという事で集まったものです。大きなローマ字の 、 、 、 となっているのが今まで言っていた大項目というところに当たるものです。それから数字の1、2、3と書いてあるのが中項目と考えて下さい。その中項目ですが、今まで9つのグループだったものをどのようにくっつけるとうまく1つの都市マスタープランとしてということが一番念頭にあるかと思うのですが、伝わりやすいものになるかという事で、コンサルの方にたたき台を作っていただいた上で、グループリーダーの皆様からキーワードを言いあいながら、勢いで決まってしまったような雰囲気タイトルのタイトルまでありますが、決まったものです。事務局サイドのイメージとしましては、出来ればこうした中項目それぞれについてまとめていき、最終提言にまで持っていければと考えている次第です。そうした場合に例えば1土地の記憶の再生と創造というところですが、割とこのテーマというのが第3分科会の中では大きかったのではないかとということで、文化・歴史を都市の軸にするといったような文化・歴史の話、それから水と緑の環、これは都市の森を作ろうとそういう話がありましたけれども、こうした緑というのは歴史の上で出て来たんだという事が非常に伝えたいという思いがリーダーの方々から声上がりまして、文化・歴史と緑・河川を一緒にしてみたらどうかということです。3番として例えば景観というものが区民の共通の資源であるんだということを打ち出そうということで、景観そして超高層が入ってくるのではないかとということで、最初の大きな1番の話としてこうした内容はどうかということです。それから2番としてはくらしを守り、いのちを育てる、この言葉もリーダーの皆様からの活発な議論の中で決まり今日皆様に提案

させていただいている訳ですが、住宅・住環境、ユニバーサルデザインの話の中では、やっぱり地域の中で適した住まいに好きな時に住み続けられという話があったとか、防災・安全・安心の究極と言うのはいのちを守る事ではないか、公園や公共施設は先程の話にもありましたが、既にあるものをどう活用していくのかということです。大きな3番としては、楽しもう新宿という言葉がありますが、一言で言えば車中心から人中心へという道路・交通・公共空間の話、それから歩いて楽しいという言葉がぶらり新宿というのはどうかということで、賑わいや活性化、あるいは情報化と言ったような話。それから大きな4番はわれらの新宿、地区で考え地区で行動しようという都市内分権や地区協議会のような話。それからいつでもどこでも誰でも参加、参加・協働・自治・外国人と言ったようなテーマ。それから3番のお金は大事だよ、これは財源の話です。このような全体の章立て、あるいは大項目・中項目を他の分科会のリーダーの方々に今日投げて来ました。例えば大きな1番ですと第4分科会や第5分科会に特に関連するだろうという事でそれぞれのリーダーの方に5、6人程度是非いらしていただいて議論に加わっていただけないかという話をして参りました。さすがに今日頼んでいきなりという訳にはなかなかいかないと思いますが、なるべく善処すると皆さんにお応えいただきまして、特に第1分科会の方は2だけではなくて、1、2、3、4全部に行きたいと言ったような積極的なご意見もいただきました。とりあえずここまでは以上です。

：この4つの大項目の表現についてはまだこなれていないと我々は思っております。ただむしろ中項目という先程も説明にありました、今合計11個あがっていますが、これが第3分科会としてすべてで11でいいのかというのもまだ分からないし、それから他の分科会からひょっとして、新たに高齢者の中項目をたててほしいとか、いろいろあがってくるかもしれません。大項目はむしろほんとに最後の最後、美しい表現をとりたいと思っているのですが、中項目はやっぱり分かりやすさとか、テーマに即した言葉をきちっと選ぶ事が重要なので、大項目は不平・不満、新たな提案があるかとは思いますが、ちょっと置いておいていただいて、中項目でこれから第3分科会は4回ありますが議論していきたいと思っています。それでこの中項目の中に今まで9つのグループで詳細に議論していただいた内容をどう入れ込むのかという事が次に問題になる訳ですが、それにつきましてはコンサルのほうで説明してもらおうと思いません。

：それでは提案ということで、テーマ別構成分類というのがありますが、このテーマ別構成分類は皆さんが9つのグループの中で提案していただいたキーワード的なものハード的なものを整理しまして、大項目の4つに分類しております。どのような構成を考えているかという事で、構成例を見ていただきたいのですが、1つは新宿のまちの現状と課題という事があります。今まで皆さんが議論しあった中で課題を示していこうという事で分かりやすい表を付けながら考えていこうと思っています。それから

2つ目としましては、これからのまちづくりの方向性という事で、これは皆さんで個別に取り組みました方向性を示したものをに入れていこうと思っています。それからもう一つは、推進プロジェクトの例という事で、具体的なものが可能と思われるものについて目出ししたいと思っています。それを踏まえまして、今回は第1項目の土地の記憶の再生と創造という大項目と中項目、これをたたき台として作成しております。構成としましては、将来のあるべき姿という事で、大項目の中で目標を作っていければいいと思っています。その下に将来あるべき姿を地図や図面、写真などで伝えていけるものがあればと思っています。次のページからは中項目になります。文化・歴史を都市の軸にするという事で考えておまして、先程言いましたように現状と課題、その下にデータとなる資料を付けていきたいと思っています。また、中項目のキャッチフレーズを考えていきたいと思っています。大項目と中項目の構成についてはこのようなたたき台を今回提出いたしました。

：ありがとうございます。大きく大項目を4つ作り、中項目はこれプラス があるという事を先程ご説明いたしました。この中項目の中をどのような構成にするかという事は実は今日たたき台ということで、僕らまだきちっと議論していませんし、グループリーダーの方々とも議論していません。それから企画の方とも議論していない。もちろん都市計画の方ともきちっと議論していないので、この通りにいくとはまだ決まっていません。ただとりあえず課題という今の問題と将来の方向、それから今後10年の中で先駆的に特に何かプロジェクトをやったほうがいいだろうという提案、事例です。それから僕の意見で書いてありませんが、やっぱりそれぞれの中項目の中で文章で言っている内容を1枚の図面の中に分かりやすく表現する。それには相当工夫をしないと即地的に全て書ける事だけではないのですが、でもやっぱり我々は今までの都市マスタープランと基本計画を合体し、区民にも分かりやすいものにしようという事でこういう会をスタートしているので、中項目レベルで分かりやすい図面を1枚でも2枚でも付けるという事を僕はずっとやるべきだと思っていますので、これから議論をする中で作っていききたいと思います。それで戻りますが、4つの大項目をこれからの第3分科会の4回の議論の会の主たるテーマにし、それに関連する分科会の方から来ていただき、そこで議論して、あとはグループリーダーに我々起草を担当するほうに原稿を一応任せていただいて、書いて来たものをまたこれでいかがでしょうかとお見せするという形にこの後半の第4ステップの分科会の進め方をしたいという事です。お分かりいただけましたでしょうか。第3分科会だけでレポートを作って、ポンと出してしまえば一番楽なのですが、でもそのあとが大変な訳です。基本構想審議会のほうに丸投げしても、ですからなるべく僕の意見では、今までは各分科会で勝手に書いて来た部分があるのですが、もっと対立する点もあるかもしれない。しかし、他の分科会とやり合った上できちっとしたものを基本構想審議会や区に出したいと僕は思うので、中間発表以降の最終発表に向けてのやり取りが結構複雑だったりいろいろ

とありますが、ちょっとその辺の努力を出来たらと思っていますのでご理解いただけたらと思います。よろしいでしょうか。第3分科会というのは基本構想、基本計画、都市マスタープランの中心的な分科会だとずっと言い続けてきましたし、思っています。それはいろんな他の分科会が提案しているソフトな新しい提案をハードな形でどう実現していくかという裏付けをここできちっとして、そのユニークないろんな新しいソフトな区民ならではのユニークなアイデアをハードなほうでも少しフォローして、最終的なレポートにしたいということです。やっぱり第3分科会はどちらかといえば他の分科会がばらばらになりがちなものをまとめる役割を持たなければいけない宿命を負っている訳です。ですからこれからの4回の時になるべく来て下さいと呼びかけをしてやるのはとてもよい事だと思っています。

：そうですね、防災に関してはこちらで専門的にできるのですが、安心・安全というテーマになってしまうとどうしても防犯面を入れざるを得ないので、やはり防犯対策の面で意見交換をしておかなくてはならないだろうと。防犯と言いますと地域防犯というものが主体にもなってきます。ですから是非お願いしたいと思います。実は危機管理課のほうで、具体的に言えば鳥インフルエンザなんかは安心・安全に入ったりしていて、今後の危機という事で、数年後には何十万人も死ぬというテーマまで実は起きて来ている。ちょっと防災とは関係ないかもしれませんが、そういうものも必要なのかと命を守るという面では、新宿の危機管理課ではそういうのが出ています。ですから是非宜しくお願いします。

：今、の2です。命を守るというところで。これは中項目で命を守るということですが、実際では小項目という言い方は妥当ではないかもしれませんが、いくつかのテーマで列挙するような防犯の問題や防災の問題、列挙してひとくくりに命を守るとはどういう事なのか、どういう新しい考え方がそこに導入されるのか、どういう新しいプロジェクトが次の10年必要なのか。ソフトとハードがそんなにきっちり分ける事が出来ない訳ですから、分かりやすく書こうということで、第6分科会とやりたいという意思を表明したいと思います。その他、さっき勝手に申し上げたことと言えば、地区協議会やお金の話、これも第6になるわけですがどうします。

：ほんとに第6分科会と9班とは全くかぶっていますが、今のところは中間発表でそのかぶっている部分はまだ浮き彫りになっていなかった。これからということで。

：それはさっき運営委員会とおっしゃったそこに行ってもいいのですか。こちらの方々何人か。それともそれはちょっとまずいんですか。どういうふうにやったらいいですか。

：すみません、独断で言えないので。来週運営委員会を招集しようという事になりましたので、その時に今の話を。

：それで9班のほうは、どっちかというまぢづくりと言う視点で勿論こねていただいています。地域をまぢづくりの視点から考えた時にどうするかという話で、その

ままストレートに地区協議会そのものになると思っていません。地区協議会の中のまちづくり分科会なのか、あるいは別のまちづくり協議会という格好なのかを含めてはっきりは見ていません。自治の問題と言ってもあんまり広い自治の問題と言うのはここでは議論してなくて、地域づくりというところについての住民参加という意外と現実的なレベルの話をしているので、区全体の自治の運営などその辺まではたぶんここは扱わないだろうと。第6分科会の本当の仕組み、その辺までは我々は多分立ち入らないのではないかという気はしています。

：ちょっといいですか。この25日に地区協議会との意見交換会があります。区民会議と地区協議会とのやりとりが。ただここに書いてあるような問題がもっと山のようには抱えていると思うんです。その意見でどういう話し合いが出るか、やって見なければ分からない事ですから。それをある程度包含して、こっちへ組み込んでやらなければならないというようなものも場合によってはあるかもしれないと私は思うのです。それをもっと勘案して考えてもらいたいと思います。

：その3月25日の主催はどこになるのですか。

：企画政策部長の招集で皆さんにお集まりいただく予定です。実のところ地区協議会のほうは進み具合がばらばらと言う風に聞いておまして、地区協議会の代表として今回おいでいただくというような内容ではなくて、地区協議会の委員さんの中で、特に区民会議と意見交換をしたいというご希望のある方のみの参加という事です。地区協議会がばらばらに動いていますが、区民会議としては地区協議会でどのような議論がなされているのか、どういう動きをされているのかということをお聞きしたいということで今回意見交換会をやりますので、現時点でやってみないと分かりませんが、地域ごとに具体的な事例が出てくるのか、それとも個人の方の意見としておっしゃられるのか、ちょっとその辺は状況として分かりません。とりあえず意見交換をしてみましょうと言う事で今回やりますので、その状況がどうだったのかは、またこちら第3分科会のほうにお知らせしたいと思います。今のところ状況としてはまだ具体的なものがあがってくるというところまではいかないのではないかと私も思っております。

：意見交換会と言うのは地区協議会と区民会議でということですか。区民会議側はどなたが。

：区民会議側はリーダーとうちの分科会はサブリーダーはまだ決まっておりませんが、たまたま今回のテーマとして地区協議会の今回ご出席されるメンバーの方々からテーマの希望がございまして、環境・まち美化、子育てと多世帯交流、安全・安心、協働・参画・コミュニティー、まちづくり、高齢者、計6つの班で打ち合わせをしようと言う事になっています。とりあえず第3分科会ではまちづくりのところと、それから安全・安心のところを担当しようということで、今回安全・安心のグループがまさにありますので、グループリーダーに出させていただこうと思っていただけののですけれども、

お仕事で御都合がつかないと言う事で、今のところ さんにおいでいただくような予定であります。第3分科会はリーダーと安全・安心のチームの方という事で。

：ではむしろ区民会議側が地区協議会で動いていらっしゃる方から意見を聞くという感じ。

：聞くだけではなくやり取りをすると。

：分かりました。ちょっと話は戻ります。気になりましたのは、歴史・文化のところが第5ともう少しやったほうがいいかと思うのですが、これはこっちへ来ていただくだけでいいですか。それとも何かどうしますか。

：大変熱心な方がいらっしゃいますので、ご意見をおっしゃると思いますので、それを伺ってからにしたほうがいいと思います。

：必要があればその後ちょっとやり取りをするかもしれないと。

：そうですね。

：分かりました。ありがとうございます。それはいいと思います。ちょっと分からないけど水と緑の環というこの1の2ですが、これは第4分科会とやる必要はないですか、どうですか。皆様のご意見あるいは4月4日だからもうすぐ、とにかくやってみてからにしますか。そういうのも現実的ですね。はい、どうぞ。

：ユニバーサルデザインに関しては、どの会も言葉的には出ていますが、内容はほとんどなかったというのが現実で、第3分科会のユニバーサルデザインをやっているところが1番分かっていると。

：分かりました。分かりやすいご見解ありがとうございました。何か他の分科会とそういう点、お気づきの点がありましたら御発言いただきたいと思いますが、ございますか。はいどうぞ。

：先程の地区協議会と区民会議でまたがっている人はどのくらいいるか把握しておきたいのですが。

：では自己申告してもらいましょう。他の分科会にも出ていらっしゃる方は、6と5。2人だけ。地区協議会に参加されている方は、やっぱり多い。一つ一つ聞いたほうがいいですね。どこの地区か。自己申告で端から言って下さい。

〔四谷3人、新宿駅前2人、筆筈2人、落合第二3人、大久保1人〕

そろそろ時間ですが、今日の事とそれから今後の進め方について何かご意見、はいどうぞ。

：3点お聞きしたいのですが、多分世話人会の中で話されていると思うのですが、1つは区民会議の位置付けをどういうふうにするのか、今後検証と言う作業が必要で、このメンバーが2年後、5年後、10年後検証作業をするのかどうか。それと区民会議でまとめられたものがどのように都市マスや都市計画に反映されるかというのを文章の中で書く必要があるかどうか。それと他の分科会では具体的な文章を委員が書き始めているので、今回この分科会ではそれぞれ大テーマごとにやっていくわけですが、

文章も委員の思い入れがあると思うので、そういうものもあげていくのかどうかという、その3点お願いします。

：1と2については次の世話人会で僕らが問題提起をするという事で預らせてください。3つ目の誰が文章を書くか、どういう風を書くかという事。先程の大項目ではなくて次の中項目のところで一つのまとまりのある考え方を提供しようと。それが基本計画のレベルで一番分かりやすいだろうと。それ以上細かい事を書くの実施計画で予算をどうつけるかの話みたいになってしまうので、中項目で今までの進め方という問題があって、新しい進め方はこういう風にすべきだという方法を書き、具体的な例のプロジェクトで限定して2つ3つを書き、それを図面化したものをもう1枚付ける。それが中項目の1つの書きっぷりではないかと思っております。その中項目は責任者という人が1人書いていただくのが1番いいと思っておりますが、それをすべて、第3分科会でここは書きますと決める行為と、それから第3分科会で書くと言った時、第3分科会のどなたに書いていただくかはまだ決めていないですよ。4月7日に世話人会および窪田先生を含めた調整部会があるので、そこで中項目の洗い出しを各分科会から出てくるのでそこでおさえます。4月7日の後の分科会には、中項目を出せると思います。従ってこの中項目は第3分科会が中心になって書くから、どなたかお願いしますという言い方は出来ます。出来ますがそういう風に書いていただいているのでしょうかというのがありますね。要は一応都市計画、それからコンサルタントもついているので、今までを踏まえてコンサルタントが下書きの下書きを書いてくると、それでそこを修正したり付加したり直したりするのを投げかけるというシステムもある訳で、ゼロから書いていただく事が好ましいのかどうか、僕は今判断がつかない。ご意見がありますか。

：どちら側からですか。中間報告でここまでまとめたものをそれから読み取って書いてもらうのか、それとも逆にこちら側から出せるだけ出したものを思い入れがいろいろ委員の中にあるので、出せるだけ出してそれを読み取ってもらうという作業をしていただいたほうがいいのか。どちらがいいのか。

：今の所このたたき台を書いた時の書き方というのは、中間発表の時に出していただいたペーパーからと、皆さんの議論を聞かせていただいた中からキーワード的なものを引っ張りあげました。なるべく多くというか漏れのないようにキーワードを引っ張り上げてそれを提案の中に盛り込んでいくということでやっていきたいと考えて、4月4日、11日、20日、5月9日の資料を作った方がいいのかと事務局としては考えていました。まだ出し切れていないというお話でしたらそれも出していただいて、追加していただいた上で網羅して、その上で書いたらいいのかと思います。ただ時間的に厳しい、4回しかないですから、もしもまだ議論しおえていなくて出したいということがあればそれは早めに出していただいて、それも盛り込んだ上でなるべく統一的な書きっぷりでまとめていったほうがいいのではないかと考えているところです。

：たたき台のネタというのは今までみなさんが議論していただいた中間のまとめの発表なりこれから追加していただくものだと思っています。こちらから用意するという事はなくて、議論していただいた内容をまとめてもう一度文章化してお示しをするという風に考えていると思っています。

：正直言って今のところコンサルタントに素案の素案を書いてもらってここで発表し、これから4回の中で発表し議論を頂いてもこれじゃおかしい、足りないという意見を言っていて直す、そういう事を想定はしていました。

：キーワードがのっているので文章を付けたい気はあります。それを早めに出して。

：中間発表の防災のまとめはみんなが討議してきた内容と若干、あまりにもソフト面が。そういう観点が違う面があるので。

：分かりました、じゃあこうしましょう。2の2の命を守るというところはほとんど第6のグループが中心になりますので、ここを書いてもらう。4月11日に出すまでに。他のグループでも是非書くとするところがあれば、この中項目で書いていただきましょう。

：これはコンサルさんがまだはっきりしないとかなり困るのではないですか。まとめ、この提案書。項目だって僕らが提案したものの全部採用しているくらいだから、内容的にそんなに項目数が出来るかどうか。そんなにできるのかと考えたら、1日1枚ではなく、その日に終わった意見を持ってまとめるのではないですか。

：でもそれは2重手間では。4月11日までに出せたほうがいいのでは。

：1週間前に考えて来て宿題みたいな形でレポートを出してそれで考えましょうという形でやるのに、その日に終わってしまったらその日の討論が何もなくなってしまうので。

：いや、4月11日に出していただいたものに対して、第6分科会の人に来る訳ですよ。

：だからそこで自己完結しないですよ。

：勿論。

：今の先生の言い方だと11日にまとめてしまっているのだから、それまでに作って来てもらおうという意見だと。

：今の言い方だとそんな感じにとれる。

：僕はコンサルタントが書いたものをたたき台にして議論して、その中で受けたものを書き直すのが民主的だし、時間の無駄がないという風に申し上げたつもりなんです。結局、それぞれのテーマが違うので、当然、熱の入れようが違うし、こういう言い方も変だけどやっぱりコンサルタントは仕事でやっているから、思い入れというのは皆さん絶対強い訳ですから。皆さんが書いていただいたもの僕は原則的にいいと思います。だけどそれではまた誰が書くのか、書きっぷりがばらばらになったりするので、書きたいという、書いたほうがいいだろうと勿論皆さん判断して下さるところは

勿論書いていただく。ただこの体裁ですとか、現状、まちづくりの方向性など書きっぷりは踏まえた上で書いていただきたいと申し上げている。僕はそれの方が満足度は高いのではないかと思うのですけれども。ただそれも皆さんに強要する訳ではないので、書きたい、あるいは今までの流れの中で書いたほうがいいと判断される方だけの問題で僕はいいと思います。

：中項目について何の議論もなく、他の分科会がどうこうという話しかなかったのですが、私は最初のところで文化と歴史を都市の軸にするというところに、よくありふれた話ですが、新宿区というのは浄水場の跡地にあって、超高層とかそういうのは抜けてしまう。一般的に保存と開発というのはいろいろ調和を保ってやらないといけないのに、全部保存のトーンで出ると何か抜けてますよね。

：ちょっと誤解があるのは、中項目の見出しだけを読むとそう思われるものもあります。しかし、中項目を決めたのは実はグループリーダー会議です。僕が、事務局だけで決めたのではないです。従ってまずこれをもとに次回以降やろうという事をお願いしたいです。ただこの例えば1の1がトップでくるのは非常にというニュアンスがあるならば1の1と1の3を逆にしたらどうですか、そういう形でご提案を頂いたほうが議論になると思います。これは中項目の見出しだけです、中身を踏まえて一緒にこれから議論をしていきたいと思います。

：このたたき台もたたき台のたたき台でして、これでフィックスをするというものは全くありません。だから議論の種がないとお話しづらいというところもあって、リーダー会議で決めていただいてコンサルさんがまとめて来たというものですので、もしもここで変更が必要だと言う事があればおっしゃっていただければいいと僕は解釈をしております。それと中項目の1の1の文化と歴史と都市の軸にするといった中身の話ですが、それも多分皆さん色んなご意見があると思いますので、繰り返しになりますけれども、とりあえずたたき台的なものを出させていただいて、もしもそれが思い入れのあるグループで、大幅に違うという事があればそれは書き直したらいい。ただたたき台もなしにああでもないこうでもないとおっしゃっているのは時間も厳しいと思いますから、とりあえずたたき台を出させていただいて大幅に違うのであれば皆さんに書き直して頂いたらよろしいと思っております。

：4月4日はたまたまこの1番目の大きな大項目になりますので、その中で1の1の中身、1の2の中身、1の3の中身を一応こちらから説明をさせていただいて、そのトーンがちょっと違うということがあればその時に是非ご意見をいただきたいと思います。

：よろしいでしょうか。この1の議論は4月4日主にやるという事ですので、そのために後ろのほうに本当のたたき台のたたき台でコンサルタントに書いていただいた文章があります。従いまして目を通していただいて、是非4月4日に議論頂きたいと思っております。説明を4月4日にコンサルの方がいたします。貴重な写真や図面などきつと

入れなければいけないと思うので、こんなの入れたほうがいいというご提案があったら是非、これから4回しかありませんので、その4回の中で是非お願いいたします。よろしいでしょうか。では少し超過してしまいました。申し訳ありません。これにて本日の第3分科会、終了いたします。どうもありがとうございました。

閉 会